

(科目名) 環境学 I			(群) 現代社会適応科目群
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(系) 環境関連科目
環境科学センター	センター長・教授	酒井伸一	(開講期) 前期
環境科学センター	助教	浅利美鈴	(授業形態) 講義
理学研究科	教授	酒井治孝	(対象回生) 全回生
防災研究所	教授	向川均	(対象学生) 全学生
農学研究科	教授	神崎 護	
化学研究所	教授	宗林 由樹	
人間・環境学研究科	教授	林達也	
(授業の概要・目的)			
<p>環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡みあったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決策を打つことは簡単でない。そのような状況で、基礎知識や思考力、それらをベースとした判断や行動が重要になるが、ここでは、重要な基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係について学び、考える。</p>			
(授業計画と内容)			
<p>環境問題は、危急の課題として、広く認識されている。特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみなさんにとって、環境問題への対応は、様々な形で、必ず求められるものとなるだろう。</p> <p>しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。</p> <p>そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す思いや力などである。</p> <p>そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。なお、後期の「環境学 II」は、環境問題へのアプローチや実践例を中心とした内容であり、両方あわせて基礎から実践までをカバーしたものとなる。</p> <p>具体的な講義のテーマ及び内容（環境学 I）は、次の通りである。</p>			
1. 環境問題を俯瞰する	環境問題の全体像、環境問題の歴史（2回・酒井伸一）		
2. 「地球」について学ぶ	地球の歴史、地球の構造と仕組み（2回・酒井治孝）		
3. 「自然・生態」について学ぶ	<p>【1】自然の構造と仕組み、気候変動（2回・向川均）</p> <p>【2】生態、生物多様性、熱帯の森林（2回・神崎護）</p> <p>【3】海・湖と環境、水圏化学（2回・宗林由樹）</p>		
4. 「人間・健康」について学ぶ	人体、環境と疾病（2回・林達也）		
5. 事例や実践例を学ぶ	大学の環境管理、環境教育、ライフスタイル、実践者から学ぶ（3回・浅利美鈴）		
(成績評価の方法・基準)			
<p>教員ごとに、講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。単位は提出された各テスト結果やレポートの採点を総合して認定される。原則として4名以上の教員に対する小テストやレポートを、講義中に提出しなければ成績評価の対象とならない。レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。</p>			
(履修要件) 後期の「環境学 II」や「環境安全学」との連続した履修を推奨する。			
(教科書)			
(参考書) 講義中に紹介			